



# 『探偵小説』の時代

本格ミステリーや警察小説など様々なジャンルが存在する推理小説。その源流といえるのが探偵小説です。明治時代に誕生してから1960年代までの代表的な探偵小説を、年代別にご紹介します。

目次	1 「探偵小説」の萌芽 (～1919年)	3 「推理小説」の時代へ (1946～1964年)
	2 『新青年』の誕生 (1920～1945年)	4 探偵小説・推理小説をもっと知る

★ 1～3の項目は、作品が初めて発表された年の順で掲載しています。4の項目は書名順で掲載しています。

★ 書名の後についている記号は、次の通りです。

【配本所用資料】・・・配本所用資料は蔵書検索では表示されません。利用を希望される場合はお手数ですが職員までお訊ねください。

【禁帯出保存資料】・・・昭和30年(1955)以前に刊行された資料は、保存の観点から「館外貸出」「コピー機による複写」ができません。カメラによる撮影は職員へお申し出ください。

★参考資料：『日本推理小説辞典』（中島河太郎/編 東京堂出版）

『現代推理小説大系 別巻2』（松本清張/〔ほか〕編 講談社）

## 1 「探偵小説」の萌芽 (～1919年)

明治10年代の翻訳探偵小説はまだ翻訳が少なく読者が限られていましたが、明治20年頃から黒岩涙香を始めとした翻訳小説の執筆が盛んになり、同時に実話や創作の探偵小説も増えていきます。探偵小説時代の到来です。

初出年	タイトル	著者等	出版社	出版年
1879 (明治12)	「高橋阿傳夜叉譚」(『縮冊日本文学全集 5』より)	仮名垣魯文	日本週報社	1960
1887 (明治20)	「松の操美人の生理」(『円朝全集 3』より)	三遊亭円朝/述	岩波書店	2013
	「黄薔薇」(『円朝全集 4』より)			
1888 (明治21)	「西洋怪談 黒猫」「ルーモルグの人殺し」(『明治文学全集 7』より)	エドガー・アラン・ポー/作 饗庭篁村/訳	筑摩書房	1972
	「賈貨つかひ」(『逍遙選集 別冊2』より)	キャサリン・グリーン/作 坪内逍遙/訳		
1889 (明治22)	「無惨」(『黒岩涙香探偵小説選 1』より)	黒岩涙香	論創社	2006
	「是は是は」「あやしやな」(『露伴全集 1』より) 【禁帯出保存資料】	幸田露伴	岩波書店	1952
	「探偵ユーベル」(『新日本古典文学大系 15』より)	ヴィクトル・ユゴー/作 森田思軒/訳	岩波書店	2002
1891 (明治24)	「盗賊秘事」(『山田美妙集 2』より)	山田美妙	臨川書店	2012
1892 (明治25)	「罪と罰」(『新日本古典文学大系 15』より)	ドストエフスキー/作 内田魯庵/訳	岩波書店	2002
1909 (明治42)	「奇絶怪絶飛来の短剣」(『探偵奇譚吳田博士』より)	オースティン・フリーマン/作 三津木春影/訳	作品社	2008
1913 (大正2)	「病院横町の殺人犯」(『鷗外全集 11』より)	エドガー・アラン・ポー/作 森鷗外/訳	岩波書店	1972
1917 (大正6)	「半七捕物帳 第1話」(『半七捕物帳 巻の1』より)	岡本綺堂	筑摩書房	1998
1918 (大正7)	「人面疽」「金と銀」「柳湯の事件」(『谷崎潤一郎文庫 5』より)	谷崎潤一郎	六興出版	1973
	「開化の殺人」(『芥川龍之介全集 3』より)	芥川龍之介	岩波書店	1996

1918 (大正7)	「指紋」(『定本佐藤春夫全集 3』より)	佐藤春夫	臨川書店	1998
1919 (大正8)	「呪はれた戯曲」(『谷崎潤一郎全集 6』より)	谷崎潤一郎	中央公論新社	2015 2016
	「或る少年の恐れ」(『谷崎潤一郎全集 7』より)			
	「途上」(『谷崎潤一郎文庫 5』より)	谷崎潤一郎	六興出版	1973

## 2 『新青年』の誕生(1920~1945年)

大正9年(1920)探偵小説雑誌『新青年』が創刊されます。編集長の森下雨村が小酒井不木、横溝正史、角田喜久雄、海野十三、小栗虫太郎、木々高太郎らを起用して第2次世界大戦前の探偵小説の黄金時代を築き、江戸川乱歩も同誌で数々の代表作を発表しました。

初出年	タイトル	著者等	出版社	出版年
1923 (大正12)	「二銭銅貨」(『二銭銅貨・パノラマ島奇談』より)	江戸川乱歩	講談社	1973
1924 (大正13)	「二癡人」「双生児」(『江戸川乱歩全集 7』より)	江戸川乱歩	沖積舎	2007
	「琥珀のパイプ」(『大衆文学大系 21』より)	甲賀三郎	講談社	1973
1925 (大正14)	「D坂の殺人事件」「心理試験」「屋根裏の散歩者」「人間椅子」(『江戸川乱歩短篇集』より)	江戸川乱歩	岩波書店	2008
	「赤い部屋」(『江戸川乱歩全集 14』より)	江戸川乱歩	沖積舎	2008
1926 (大正15)	「パノラマ島奇談」(『江戸川乱歩全集 1』より)	江戸川乱歩	沖積舎	2006
	「鏡地獄」(『江戸川乱歩短篇集』より)		岩波書店	2008
	「恋愛曲線」(『世界SF全集 34』より)	小酒井不木	早川書房	1976
	「窓」(『山本禾太郎探偵小説選 1』より)	山本禾太郎	論創社	2006
	「あやかしの鼓」(『夢野久作全集 1』より)	夢野久作	三一書房	1986
	「セメント樽の中の手紙」(『推理作家になりたくて』より)	葉山嘉樹	文藝春秋	2003
	「あかはぎの拇指紋」(『創作探偵小説選集 復刻版 2(1926年版)』より)	角田喜久雄	春陽堂書店	1994
	「悪戯」(『創作探偵小説選集 復刻版 2(1926年版)』より)	甲賀三郎	春陽堂書店	1994
	「予審調書」(『平林初之輔探偵小説選 1』より)	平林初之輔	論創社	2003
	「煙突奇談」(『ミステリーの愉しみ 1』より)	地味井平造	立風書房	1991
	「オカアサン」(『定本佐藤春夫全集 5』より)	佐藤春夫	臨川書店	1998
1927 (昭和2)	「可哀想な姉」(『新青年傑作選 2』より)	渡辺温	立風書房	1991
	「瓶詰奇談」(『新青年傑作選 2』より)	稲垣足穂	立風書房	1991
	「お・それ・みお」(『新青年傑作選 2』より)	水谷準	立風書房	1991
	「柘榴病」(『現代怪奇小説集』より)	瀬下耽	立風書房	1988
	「殺人淫楽」(『大衆文学大系 30』より)	城昌幸	講談社	1973
	「疑問の黒枠」(『小酒井不木探偵小説全集 5』より)	小酒井不木	本の友社	1992

1928 (昭和3)	「陰獣」(『江戸川乱歩全集 2』より)	江戸川乱歩	沖積舎	2006
	「精神分析」(『モダン殺人倶楽部』より)	水上呂理	角川書店	1977
	「電気風呂の怪死事件」(『海野十三全集 1』より)	海野十三	三一書房	1990
	「ジャマイカ氏の実験」(『世界SF全集 34』より)	城昌幸	早川書房	1976
	「瓶詰の地獄」(『暗黒のメルヘン』より)	夢野久作	立風書房	1971
1929 (昭和4)	『孤島の鬼』 「芋虫」「押絵と旅する男」(『虫 江戸川乱歩推理文庫 6』より)	江戸川乱歩	春陽堂書店 講談社	1987 1988
	「押絵の奇蹟」(『新青年傑作選 2』より)	夢野久作	立風書房	1991
	「闘争」(『小酒井不木探偵小説全集 1』より)	小酒井不木	本の友社	1992
	「赤いペンキを買った女」(『股から覗く』より)	葛山二郎	国書刊行会	1992
	「殺された天一坊」(『日本探偵小説全集 5』より)	浜尾四郎	東京創元社	1985
	「偽眼のマドンナ」(『聖悪魔』より)	渡辺啓助	国書刊行会	1992
1930 (昭和5)	『黄金仮面』	江戸川乱歩	東京創元社	1993
	「胡桃園の蒼白き番人」(『新青年傑作選 3』より)	水谷準	立風書房	1975
1931 (昭和6)	『殺人鬼』	浜尾四郎	春陽堂書店	1975
	「振動魔」(『日本推理小説大系 6』より)	海野十三	東都書房	1961
	「人を喰った機関車」(『新青年傑作選 3』より)	岩藤雪夫	立風書房	1975
	「焦げた聖書」(『新青年傑作選 3』より)	甲賀三郎	立風書房	1975
1932 (昭和7)	『姿なき怪盗』	甲賀三郎	春陽堂書店	1958
	「爬虫館事件」(『海野十三全集 2』より)	海野十三	三一書房	1991
	「鮫人の掟」(『橋本五郎探偵小説選 2』より)	橋本五郎	論創社	2005
1933 (昭和8)	「氷の涯」「白菊」(『定本夢野久作全集 3』より)	夢野久作	国書刊行会	2017
	「体温計殺人事件」(『大衆文学大系 21』より)	甲賀三郎	講談社	1973
	『完全犯罪』	小栗虫太郎	春陽堂書店	1996
	「花爆弾」(『橋本五郎探偵小説選 2』より)	橋本五郎	論創社	2005
	「面影双紙」(『横溝正史全集 2』より)	横溝正史	講談社	1975
1934 (昭和9)	「柘榴」(『犯罪幻想 復刻版』より)	江戸川乱歩	東京創元社	1994
	「義眼」(『新編現代日本文学全集 43』より)	大下宇陀児	東方社	1957

1934 (昭和9)	「俘囚」(『新青年傑作選 2』より) 「人間灰」(『海野十三全集 3』より)	海野十三	立風書房 三一書房	1991 1988
	「黒死館殺人事件」(『小栗虫太郎全作品 3』より)	小栗虫太郎	桃源社	1979
	「網膜脈視症」(『木々高太郎全集 1』より)	木々高太郎	朝日新聞社	1970
1935 (昭和10)	「鬼火」 「葦の中」(『横溝正史全集 2』より)	横溝正史	講談社	1975
	「烙印」(『新青年傑作選集 1』より) 「情鬼」(『大衆文学大系 21』より)	大下宇陀児	角川書店 講談社	1977 1973
	「三人の双生児」(『新青年傑作選 1』より)	海野十三	立風書房	1991
	「睡り人形」 「就眠儀式」(『木々高太郎全集 1』より)	木々高太郎	朝日新聞社	1970
	「白蟻」(『現代怪奇小説集』より) 「鉄仮面の下」(『新青年傑作選 2』より)	小栗虫太郎	立風書房	1988 1991
	『ドグラ・マグラ』	夢野久作	早川書房	1995
	「司馬家崩壊」(『13の暗号』より)	水谷準	講談社	1975
1936 (昭和11)	「人生の阿呆」(『木々高太郎全集 1』より) 「文学少女」(『新青年傑作選 3』より)	木々高太郎	朝日新聞社 立風書房	1970 1975
	「金狼」(『久生十蘭全集 1』より)	久生十蘭	三一書房	1983
	「三狂人」(『日本推理小説大系 6』より)	大阪圭吉	東都書房	1961
	「凧」(『新青年傑作選 2』より)	大下宇陀児	立風書房	1991
	「船富家の惨劇」(『日本推理小説大系 6』より)	蒼井雄	東都書房	1961
	『鬼の言葉』	江戸川乱歩	講談社	1988
1937 (昭和12)	「鉄の舌」(『大衆文学大系 21』より) 「悪女」(『日本探偵小説全集 3』より)	大下宇陀児	講談社 東京創元社	1973 1985
	「折芦」(『木々高太郎全集 2』より)	木々高太郎	朝日新聞社	1970
	「蠅男」(『海野十三全集 第2巻』より)	海野十三	三一書房	1991
	「聖悪魔」 「決闘記」(『聖悪魔』より)	渡辺啓助	国書刊行会	1992
	「黒い手帳」 「湖畔」(『久生十蘭全集 1』より)	久生十蘭	三一書房	1983
1938 (昭和13)	「永遠の女囚」(『木々高太郎全集 3』より)	木々高太郎	朝日新聞社	1970
1939 (昭和14)	「海豹島」(『久生十蘭全集 1』より)	久生十蘭	三一書房	1983
	「有尾人」(『小栗虫太郎全作品 6』より)	小栗虫太郎	桃源社	1979
1942 (昭和17)	「オールドスの鷹」(『ネメクモア』より)	渡辺啓助	東京創元社	2001
	「葡萄」(『木々高太郎全集 3』より)	木々高太郎	朝日新聞社	1970
1943 (昭和18)	『偉大なる夢』	江戸川乱歩	講談社	1989

### 3 「推理小説」の時代へ（1946～1964年）

戦後は「探偵小説」から「推理小説」へと名称が変わっていき、やがて類縁の小説をミステリーと呼ぶようにもなります。本格派の横溝正史、角田喜久雄らの活動に加えて新人作家が続々輩出されていきます。

初出年	タイトル	著者等	出版社	出版年
1946 (昭和21)	『本陣殺人事件』 『蝶々殺人事件』	横溝正史	春陽堂書店	1997 1998
	「新月」（『木々高太郎全集 4』より）	木々高太郎	朝日新聞社	1971
	「ハムレット」（『定本久生十蘭全集 6』より）	久生十蘭	国書刊行会	2010
1947 (昭和22)	『不連続殺人事件』	坂口安吾	角川書店	1986
	「高木家の惨劇」（『現代長篇小説全集 44』より）	角田喜久雄	講談社	1959
	「海鰻荘奇談」（『香山滋全集 第1巻』より）	香山滋	三一書房	1993
	『獄門島』	横溝正史	角川書店	1986
1948 (昭和23)	「虚像淫楽」「眼中の悪魔」（『虚像淫楽』より）	山田風太郎	国書刊行会	1993
	『刺青殺人事件』	高木彬光	角川書店	1987
	『天狗』	大坪砂男	国書刊行会	1993
	「石の下の記録」（『現代推理小説大系 2』より）	大下宇陀児	講談社	1973
1949 (昭和24)	『八つ墓村』	横溝正史	角川書店	1986
	「私刑」（『天狗』より）	大坪砂男	国書刊行会	1993
	『能面殺人事件』	高木彬光	東京文芸社	1977
	「わが女学生時代の罪」（『木々高太郎全集 5』より）	木々高太郎	朝日新聞社	1971
	「かむなぎうた」（『日影丈吉全集 6』より）	日影丈吉	国書刊行会	2002
1950 (昭和25)	『薫大将と匂の宮』	岡田鯨彦	国書刊行会	1993
	『社会部記者』	島田一男	春陽堂文庫出版	1961
	『影なき女』	高木彬光	角川書店	1977
1951 (昭和26)	『わが一高時代の犯罪』	高木彬光	角川書店	1986
	「ある決闘」（『殺人者にバラの花束』より）	水谷準	角川書店	1977
	『幻影城』	江戸川乱歩	講談社	1987
1952 (昭和27)	「夜光」（『木々高太郎全集 4』より）	木々高太郎	朝日新聞社	1971
	「キキモラ」（『香山滋全集 6』より）	香山滋	三一書房	1995

1952 (昭和27)	「巫女」(『異端の文学 2』より)	朝山蜻一	新人物往来社	1969
1953 (昭和28)	「赤い靴」(『虚像淫楽』より)	山田風太郎	国書刊行会	1993
	「睡蓮夫人」(『異端の文学 1』より)	氷川瓏	新人物往来社	1969
1954 (昭和29)	『化人幻戯』	江戸川乱歩	角川書店	1975
	「沼垂の女」(『日本探偵小説全集 3』より)	角田喜久雄	東京創元社	1985
	「蔵を開く」(『殺意を秘めた天使』より)	香住春吾	角川書店	1978
1955 (昭和30)	『狐の鶏』	日影丈吉	講談社	1979
	「虚像」(『日本探偵小説全集 3』より)	大下宇陀児	東京創元社	1985
	「クレイ少佐の死」(『現代の推理小説 1』より)	大河内常平	立風書房	1970
	『上を見るな』	島田一男	春陽堂書店	1973
	『人形はなぜ殺される』	高木彬光	徳間書店	1958
1956 (昭和31)	『顔』	松本清張	講談社	1979
	「黒いトランク」(『鮎川哲也長編推理小説全集 1』より)	鮎川哲也	立風書房	1977
1957 (昭和32)	『点と線』 『眼の壁』	松本清張	光文社	1984 1982
	『猫は知っていた』	仁木悦子	大日本雄弁会講談社	1958
	『悪魔の手毬唄』	横溝正史	東京文藝社	1977
	「笛吹けば人が死ぬ」(『日本探偵小説全集 3』より)	角田喜久雄	東京創元社	1985
1958 (昭和33)	『四万人の目撃者』	有馬頼義	中央公論社	1981
	『氷柱』 「ある脅迫」(『落ちる』より)	多岐川恭	東京創元社	2001
	『天狗の面』	土屋隆夫	東京創元社	2001
	『成吉思汗の秘密』	高木彬光	徳間書店	1987
	『野獣死すべし』	大藪春彦	新潮社	1986
1959 (昭和34)	「黒い白鳥」(『鮎川哲也長編推理小説全集 3』より) 『憎悪の化石』	鮎川哲也	立風書房 角川書店	1977 1979
	『黒い画集』 『ゼロの焦点』	松本清張	光文社	1982 1984
	「リスとアメリカ人」(『有馬頼義推理小説全集 1』より)	有馬頼義	東邦出版社	1971
	「からみ合い」(『現代推理小説大系 16』より)	南条範夫	講談社	1973
	『天国は遠すぎる』	土屋隆夫	角川書店	1975

1959 (昭和34)	『霧と影』	水上勉	角川書店	1978
	「危険な関係」 (『現代推理小説大系 15』より)	新章文子	講談社	1975
	『団十郎切腹事件』	戸板康二	講談社	1981
	「ひげのある男たち」 (『結城昌治作品集 1』より)	結城昌治	朝日新聞社	1974
1960 (昭和35)	『白昼の死角』	高木彬光	光文社	1986
	「海の牙」 (『水上勉社会派傑作選 2』より)	水上勉	朝日新聞社	1972
	『人喰い』	笹沢左保	講談社	1983
	「長い長い眠り」 (『結城昌治作品集 1』より)	結城昌治	朝日新聞社	1974
	「石の眼」 (『安部公房全作品 5』より)	安部公房	新潮社	1983
	『背徳のメス』 『休日の断崖』	黒岩重吾	講談社 角川書店	1986 1985
1961 (昭和36)	『人造美人』	星新一	新潮社	1970
	『破戒裁判』	高木彬光	角川書店	1987
	『細い赤い糸』	飛鳥高	講談社	1977
	『危険な童話』	土屋隆夫	東京創元社	2000
	『砂の器』	松本清張	光文社	1974
	『枯草の根』	陳舜臣	講談社	1986
1962 (昭和37)	『ゴメスの名はゴメス』	結城昌治	中央公論社	1996
	『方壺園』	陳舜臣	中央公論社	1972
	『影の告発』	土屋隆夫	角川書店	1977
	『誘拐作戦』	都筑道夫	中央公論社	1976
	『時間の習俗』	松本清張	新潮社	1986
	『大いなる幻影』	戸川昌子	講談社	1978
	『華やかな死体』	佐賀潜	講談社	1978
	『三百年のベール』 【配本所用資料】	南条範夫	批評社	1986
1963 (昭和38)	『殺意という名の家畜』	河野典生	角川書店	1979
	『密航定期便』	中園英助	講談社	1976
	『風は故郷に向う』	三好徹	中央公論社	1975

1963 (昭和38)	『夜の終る時』	結城昌治	中央公論社	1990
	『孤独なアスファルト』	藤村正太	講談社	1975
	『猟人日記』	戸川昌子	出版芸術社	1993
1964 (昭和39)	『華麗なる醜聞』	佐野洋	角川書店	1979
	『蟻の木の下で』	西東登	講談社	1975
	『虚無への供物』	中井英夫	講談社	1986

## 4 探偵小説・推理小説をもっと知る

探偵小説・推理小説の歴史や、作者・作品についての論集を集めました。  
詳しく知りたいという方は、ぜひこちらも参考にしてみてください。

タイトル	著者等	出版社	出版年
近代日本奇想小説史 明治篇	横田順彌	PILAR PRESS	2011
近代日本奇想小説史 入門篇	横田順彌	PILAR PRESS	2012
現代推理小説大系 別巻2 推理小説評論・推理小説通史・推理小説事典・推理小説年表	松本清張/〔ほか〕編	講談社	1980
こんな探偵小説が読みたい	鮎川哲也	晶文社	1992
推理小説作法	江戸川乱歩, 松本清張/共編	光文社	1959
推理文壇戦後史 続 続々	山村正夫	双葉社	1973 ~1980
戦後創成期ミステリ日記	紀田順一郎	松籟社	2006
探偵小説五十年	横溝正史	講談社	1972
探偵小説四十年 1~4	江戸川乱歩	講談社	1987 ~1988
探偵小説の社会学	内田隆三	岩波書店	2001
探偵小説論 I・II	笠井潔	東京創元社	1998
日本推理小説史 第1巻~第3巻	中島河太郎	東京創元社	1993 ~1994
日本探偵作家論	権田万治/編	悠思社	1992
日本の名探偵	横溝正史	河出書房新社	1980
日本ミステリー進化論	長谷部史親	日本経済新聞社	1993



埼玉県立久喜図書館 芸術・文学資料担当  
埼玉県久喜市下早見85-5 Tel:0480-21-2659